

6. 山地災害危険地区データ検査・更新作業

収集した原典資料・参考資料を用いて、山地災害危険地区データを作成する。

6.1. GIS 上に展開

GIS を起動し、適切な座標系を設定したうえで、背景図（地理院タイル）を表示する。また、山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）を、背景図に合わせて GIS 上でジオリファレンスする。

6.1.1. 座標系の設定

GIS のデフォルト設定を、作業対象の座標系にする。該当する座標系は、製品仕様書を参照。

6.1.2. 背景データの表示

背景データ（地理院タイル）を GIS 上に表示する。

GIS データについては適宜見やすいスタイルに変更する。

6.1.3. 山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）の表示

山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）を、背景図等をもとにジオリファレンス（位置補正）し、GIS 上に表示する（図 6-1）。

山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）の背景図と同じ、または似た背景図に合わせてジオリファレンスすると精度よく補正できる。また、大縮尺図は、先にジオリファレンスした小縮尺の位置図等も参考にジオリファレンスするとよい（図 6-2）。

ジオリファレンスした画像ファイルは、ワールドファイル付き画像（TIF/TFW または JPG/JPW）として保存したうえで、中間成果として取りまとめる。

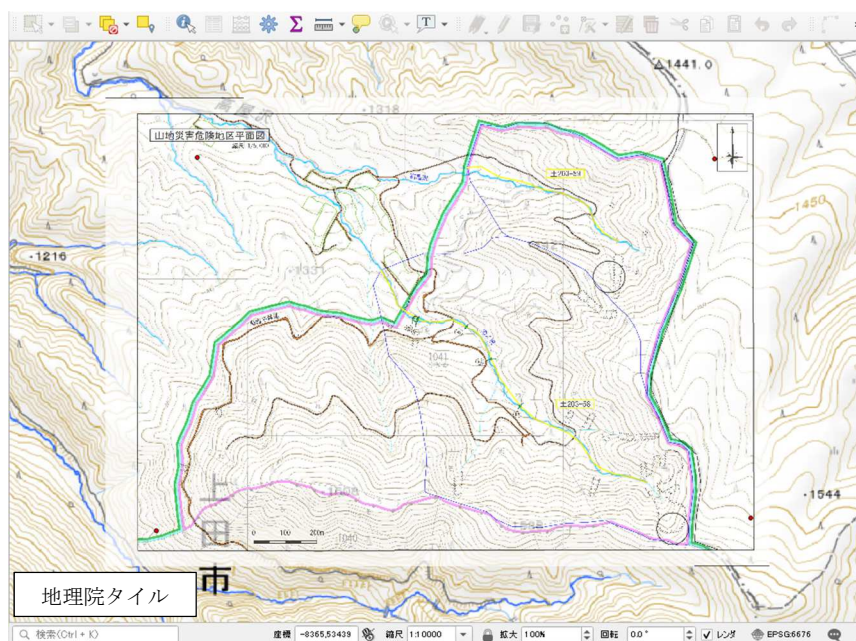


図 6-1 ジオリファレンス後の山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）（小縮尺図）

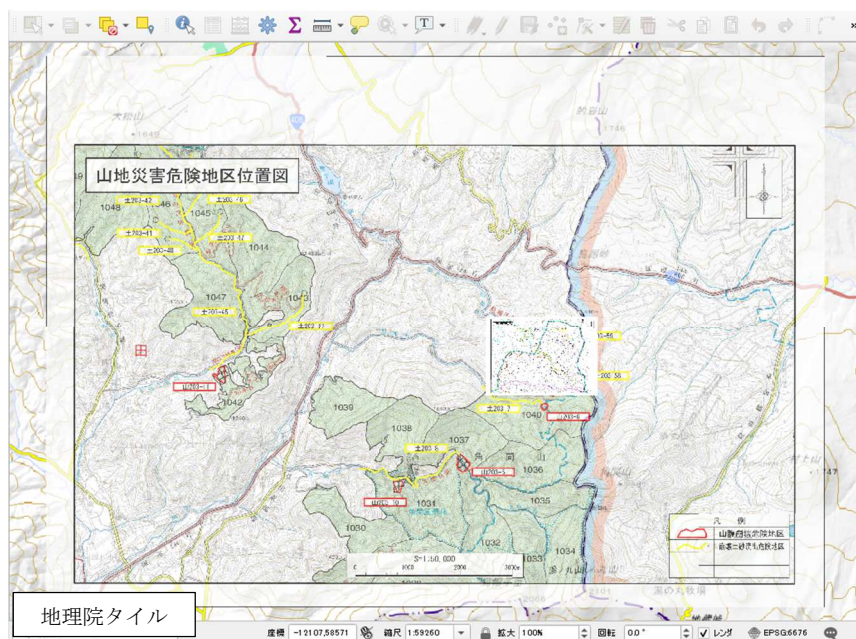


図 6-2 ジオリファレンス後の山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）（大縮尺図）

6.2. GIS データ検査・更新

発注者が有する GIS データ、令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）を山地災害危険地区 GIS データ、または山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）に合わせて編集することによりデータを更新する。

6.2.1. GISデータ

令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）と更新対象の山地災害危険地区 GIS データを GIS 上に表示し、編集を行う。

①GIS 上に展開

GIS 上に以下のデータを表示する。

- ・令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）
- ・更新対象の山地災害危険地区 GIS データ
 - （・国有林数値基本図データ）
 - （・地理院タイル）

②編集

山地災害危険地区 GIS データに合わせて編集する。

必要に応じて、属性データも編集する。

6.2.2. GISデータ以外

令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）と更新対象の山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）（ジオリファレンス済み）を GIS 上に表示し、編集を行う。

①GIS 上に展開

GIS 上に以下のデータを表示する。

- ・令和 3 年度全国環境情報等整備委託業務で作成された成果品（環境省発注）
- ・更新対象の山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）（ジオリファレンス済み）
 - （・国有林数値基本図データ）
 - （・地理院タイル）

②編集

山地災害危険地区の位置が記載された資料（図面）に合わせて編集する。

必要に応じて、属性データも編集する。

6.2.3. 留意事項および事例

GIS データ編集に伴う留意事項や事例については、事例集を参照のこと。